

講演 2：松永佳世子先生

「人を活かす」ことを使命に「置かれた環境で最大限自分を活かし」歩んできた道

松永先生は、ご自分の歩いてこられた道筋を私たちに示してくださいました。女性としてキャリアを続けていくためには、与えられた環境の中で最大限自分を活かすことを考えてこられたと言う事です。一生懸命仕事をする事は自分に与えられた使命であり、家族の深い愛情と支え、恩師の導き、そして同僚との切磋琢磨が先生を支える柱であったとの事です。そして、現在藤田保健衛生大学の副学長をつとめられるお忙しい毎日の中で、リサーチマインドを持った良き臨床医を育成される事を実践されています。「自分だからできることがある」「女性だからできることがある」「いまだからできることがある」をモットーに、まだまだこれから進んでいかれるとの事で、私たち後輩にとってさらに大きな目標としてご指導をいただけたそうです。

「人を活かす」ことを使命に

「置かれた環境で最大限自分を活かし」歩んできた道

藤田保健衛生大学医学部皮膚科学
松永佳世子

人の集まるリーダーシップとは?!

医師がキャリアを続けていく支援になる話しができないか、

女性医師を支援する話しができないか・・・

・・・考えました。

- 世間一般、他の人のことを話すより、私自身がどのような人生を歩み、今、こうして皮膚科の教授などの役職を担い仕事をしているのか・・・それを語るの方がみなさまの参考になるのではないか・・・



私の歩いてきた道

与えられた環境のなかで最大限自分を活かすことを考えてきました・・・

- 「人を活かす」 そして「自分を活かす」
人生は、それ以上もなく、それ以下もなし
- 一生懸命仕事をすることは、自分に与えられた使命
だから愚直に働いてきました。



■「国を支えて、国を頼らず」

福沢諭吉 の言葉に全面的に共感し、
潔い自立した女性をめざしています。

・・・と格好いい自分でいたいのですが・・・



■ ほんとうは、相当の弱虫・・・

四人兄弟の末っ子ですから・・・

■ 私の背後には家族の深い愛情と支えがあり、

■ やさしく、かつ、切磋琢磨する同僚がいます。



- 「自分だからできることがある」
 - 「女性だからできることがある」
 - 「いまだからできることがある」
- ・・・と自分を励まして歩いてきました。



おいたち～高校まで

- 私は1951年、小豆郡内海町苗羽に4人兄弟の末っ子として生まれました。
- 苗羽小学校、内海中学校、小豆島高等学校で学びました。
- 風光明媚な島で、人情あふれる人たちに囲まれ、ドキドキ・わくわく 冒険に満ちた少女時代を過ごしました。



AFS留学生として過ごした1年間

- 高校時代にAFS留学生として1年間米国で過ごし、異文化に触れ、多くの人たちとの交流があり、ホームステイ先の家族や友人から多大な影響を受け、
- ホームステイ先の父より
「知性とは与えられた環境のなかで最大限自分を活かす能力のことである」と学びました。



大学時代は精神科医をめざす

- 1970年4月無事現役で名古屋大学に合格
- 児童精神医学にすすむつもりであった
- 名古屋大学医学部を1976年に卒業
- 三菱名古屋病院で1年間ローテーション研修
研修中に 恩師 早川律子先生に巡り会う

その 美しさと 論理性に惹かれて
皮膚科医になることを決意



名古屋大学時代

- 1977年4月に入局した当初から、小林 敏夫教授は「松永は早川に任せる」といわれました。
- そこから、早川先生のお仕事を一緒にさせていただく時代がはじまりました。
- 化粧品接触皮膚炎、おむつかぶれ、痤瘡、美容皮膚科・・・女性でなければできない、女性だから得意な分野の仕事がはじまりました。



名古屋大学皮膚科から保健衛生大学へ

■ 1977年名古屋大学皮膚科入局

1977年5月結婚、1978年4月長女誕生、母 スミエ
名古屋へ

■ 1978年5月から2年間藤田保健衛生大学医学部 皮膚科助手として勤務

■ 1980年から1991年まで名古屋大学で診療・研究 に当たり

1981年6月長男誕生

■ 1991年4月から再び藤田保健衛生大学に帰り、 医学部講師となり、2000年5月から教授に就任し、 2009年2月から2012年1月までは大学病院の副院長 と臨床研修センター長を兼務しました。



皮膚科学教授として

医学部の学生さんを教えています

教務副委員長として教育全般に関与しています

藤田保健衛生大学医学部の教育目標

- リサーチマインドを持った
 - 良き臨床医の育成



2011年 副院長時代 の仕事の現状 大学関係

- ①藤田保健衛生大学疫学・臨床研究倫理審査委員会
委員 2か月に1回会議 1時間 審査実務 月に1時間程度
- ②学事協議会 年1回 2時間30分
- ③藤田保健衛生大学協力病院会運営委員会 委員
- ④疫学・臨床研究倫理委員会 2か月に1回



2011年度の仕事の現状 副院長時代 病院関係

教育担当副院長 臨床研修センター長

- 教育委員会 委員長 月1回
- 褥瘡実務対策委員会 委員長(隔週金曜日午前中回診 3時間;月1回委員会 1時間、月1回勉強会 1時間)
- 臨床研修センター長 毎日 書類に目を通して印鑑を押す毎日30分程度の仕事 関連した出張が月に1日
- 臨床研修管理委員会 委員 面接も含めて 年に3回程度 それぞれ1時間程度
- 臨床研修実務委員会 委員長 月1回開催 2時間 初期研修に関する実務、出張など、月に3日程度必要 研修医連絡会に参加 月2時間程度必要
- 後期研修実務委員会 委員長 月に1回 1時間30分 年3回程度開催予定
- 患者満足度向上委員会 委員 月に1回程度開催予定
- 機能評価中央維持委員会
- 院長・副院長連絡会 毎週1回 1時間
- 病院幹部会 毎週1回 1時間
- 安全管理委員会・事例検討会 月に数回 月に4時間
- 感染対策管理委員会 月に1回 20分
- 臨床系教授会 月に1回 1時間30分
- 職場環境改善委員会 月に1回開催 1時間
- 薬事委員会 委員 2か月に1回開催 2時間30分



2011年度の仕事の現状 医学部関係

- 教授会 定例 月1回 2時間30分
- 教務委員会副委員長→月に1回合同委員会 2時間程度
- 医学部後期臨床研修委員会主任→月に1回程度 1時間
5月から数回開催予定
- CME-国内委員会委員 年に2回 1時間程度
- 診療参加型臨床実習運営委員会 副委員長 年に2回程度
1時間
- 臨床教育統合活性化委員会 委員
- CM-I,II運営委員会 委員 年に2回程度 1時間
- 医学部MOU国際交流委員会 年に1回 1時間程度
- M3,M4コアカリ運営小委員会委員 年に2回 1時間程度
- 藤田保健衛生大学 医学部 入学試験委員



私の専門領域

- 私は皮膚科全般を診療領域にしていますが、
- 家庭を持ち男女二人の子どもを育て「女性であることを活かして」きた結果、
- 特に、
- 皮膚のアレルギー疾患、なかでも接触皮膚炎、ラテックスアレルギー、アトピー性皮膚炎
- 化粧品の開発や美容皮膚科の診療技術の開発
- ……専門領域としています。



学会の活動

- 日本皮膚科学会 理事
皮膚科の女性医師を考える会 委員長 渉外・広報委員会委員長 ロドデノール
含有化粧品の安全性に関する特別委員会委員長
- 日本アレルギー学会 代議員会年2回 学会年2回 3日間ずつ
化粧品中の蛋白加水分解物の安全性に関する特別委員会委員長
- 日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会 理事 学術委員長
同学会の評議員、会誌編集委員、共同研究委員
- 日本香粧品学会理事 理事会年2回 学会年2日間
- 日本美容皮膚科学会理事 理事会年2回 学会年2日間
- 日本小児皮膚科学会運営委員 会議年2回 学会年2日間
- 日本ラテックスアレルギー学会理事 理事会年1回 学会 1日
- 日本皮膚悪性腫瘍学会 代議員会 年1回 学会年2日間
- 日本乾癬学会 代議員会 年1回 学会2日間
- アトピー性皮膚炎治療研究会 世話人会 年1回 会議年1日
- 中部支部学会、西部支部学会、東京支部学会、東部支部学会など多数
原則は、中部支部のみ 他は、セミナー講師、座長があれば、出席
- 日本皮膚科学会中部支部財務委員長



学会主催

- 第2回日本臨床皮膚外科学会会長(1989)
- 第15回日本接触皮膚炎学会会頭(1990)
- 第6回日本ラテックスアレルギー研究会(2001)
- 第10回アトピー性皮膚炎治療研究会(2004)
- 第30回日本香粧品学会会頭(2005)
- 第30回日本小児皮膚科学会 会長(2006)
- 第37回日本皮膚アレルギー・接触皮膚炎学会会長(2007)
- The 17th International Contact Dermatitis Symposium & the 10th Asia-Pacific Environmental and Occupational Dermatology Symposium : President(2009.11.5-8)
- 第16回ラテックスアレルギー研究会(2011.7.31)
- 第30回日本美容皮膚科学会(2012.8.18-19)
- 第64回日本皮膚科学会中部支部学術大会(2013.11.1—2)



事務局長の矢上晶子先生と



教室の研究と診療: ゆるやかなサブグループ

- 皮膚アレルギー
- 皮膚外科
- レーザー・美容
- ヘルペス
- 心身医学
- 幹細胞研究
- 皮膚と常在菌



皮膚アレルギー

- 接触皮膚炎
- 食物アレルギー 経皮感作食物アレルギー
- アトピー性皮膚炎
- ラテックスアレルギー
- 薬疹



パッチテスト試薬共同研究委員会

氏名	所属医療機関名
松永佳世子(委員長)	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学
足立厚子	兵庫県立加古川医療センター皮膚科
池澤優子	茅ヶ崎市立病院
伊藤明子	新潟大学医学部皮膚科学
乾 重樹	大阪大学大学院医学系研究科皮膚・毛髪再生医学(アデランス)寄附講座
海老原全	慶應義塾大学医学部皮膚科
大磯直毅	近畿大学医学部皮膚科
籠橋雄二	鳥居薬品(株)
河合敬一	河合敬一皮膚科
鹿庭正昭	国立医薬品食品衛生研究所
関東裕美	東邦大学医療センター大森病院皮膚科
佐々木和実	製品評価技術基盤機構
杉浦伸一	名古屋大学大学院医学研究科 医療システム管理学寄付講座
杉浦真理子	第一クリニック皮膚科・アレルギー科
杉山真理子	(株)資生堂 品質評価センター安全性研究開発室
鈴木加余子	刈谷豊田総合病院皮膚科
小林裕美	大阪市立大学大学院医学研究科皮膚病態学
高山かおる	東京医科歯科大学皮膚科
中田土起丈	昭和大学医学部皮膚科
西岡和恵	ジョイ皮ふ科クリニック
堀川達弥	西神戸医療センター皮膚科
宮澤 仁	西さっぽろ皮フ科アレルギー科
矢上晶子	藤田保健衛生大学医学部皮膚科学
安永千尋	池田回生病院皮膚科

**日本アレルギー学会
化粧品中のタンパク加水分解物の安全性に関する
特別委員会**

委員会の構成

- 委員 18名
- 委員長 松永佳世子
- 委員
- 皮膚科: 相原道子、池澤善郎、千貫祐子、秀 道広、
森田栄伸、矢上晶子
- 小児科: 宇理須厚雄、加藤善一郎、野口恵美子
- 内 科: 岸川禮子、福富友馬
- 眼 科: 澤 充、福島敦樹
- 薬 学: 田中宏幸、板垣康治、手島玲子
- 情報管理: 杉浦伸一



【加水分解蛋白含有化粧品の障害実態の把握と抗原分析】

1. 加水分解蛋白含有化粧品の障害実態の把握
2. 茶のしずく石鹼の障害実態の把握
3. グルパール19Sの感作抗原性の分析と交叉反応性の検討
4. ホームページでの施設情報の収集と広報

【システムの構築について】

悠香の事例を受け化粧品等の副作用情報を日常的に収集する仕組みの必要性から、有害事象収集システムの構築を行う。

【治療方法開発】

茶のしずく石鹼の障害症例の治療と経過を把握し、抗原解析をすすめ、最終目標は患者さんの治療方法を開発する。

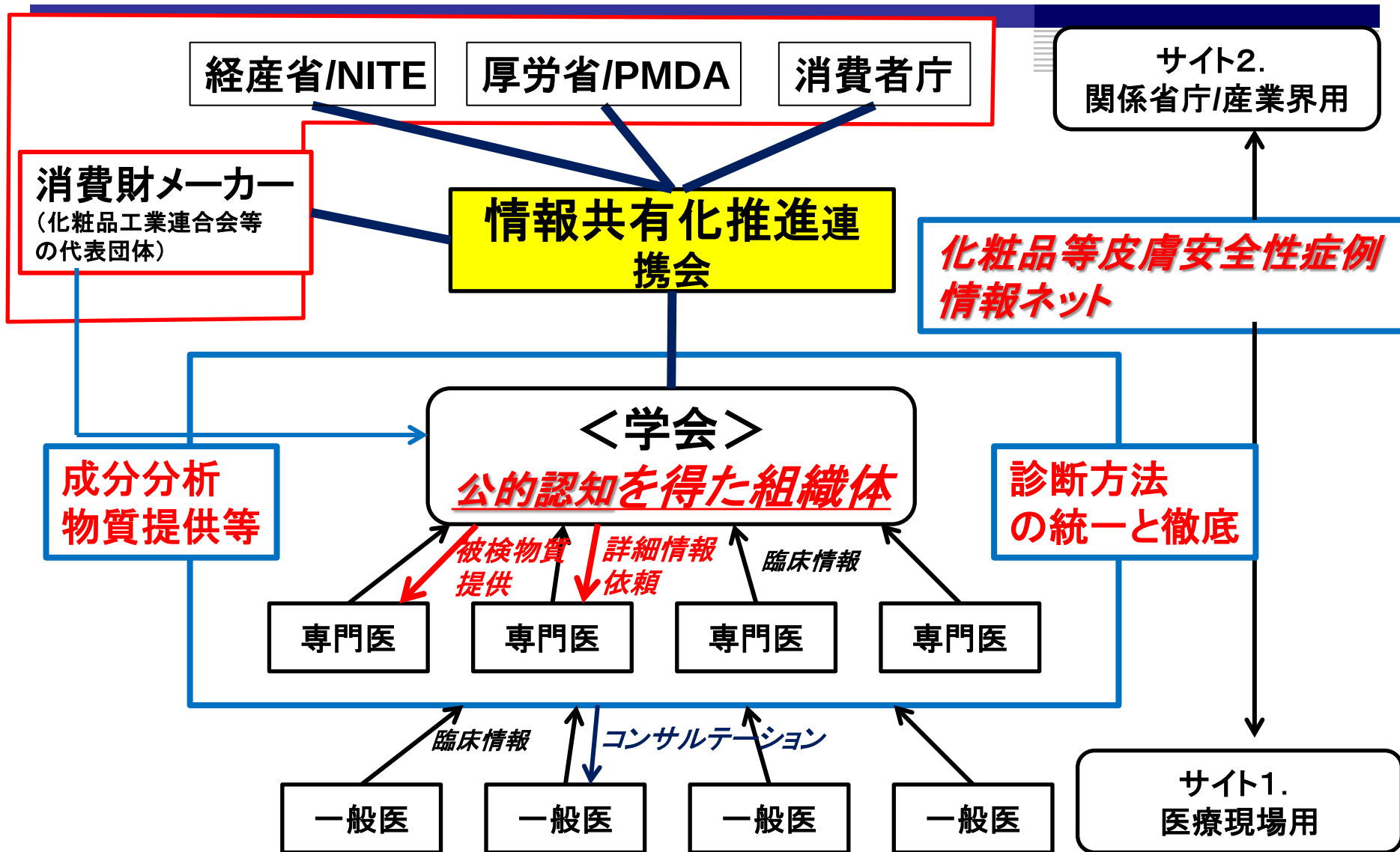
ロドデノール誘発性脱色素斑

ロドデノール含有化粧品の安全性に関する特別委員会

- (株)カネボウ化粧品並びに(株)リサーチ、(株)エキップの製造販売するメラニン生成抑制剤のうち、「医薬部外品有効成分“ロドデノール” 4-(4-ヒドロキシフェニル)-2-ブタノール」の配合された製品の使用者の中に脱色素斑(色が白く抜ける状態)を生じた症例が確認され、2013年7月4日にロドデノールを含有する化粧品の自主回収が発表されました。
- 日本皮膚科学会では、医療者(皮膚科医)と患者向けに正しい情報を提供する立場から、症例の実態調査を行うとともに病態に関する研究を行い、診断と治療方法を早急に確立するべく、7月17日「ロドデノール含有化粧品の安全性に関する特別委員会」を発足させ、活動を開始しました。
- ・委員長 松永佳世子(藤田保健衛生大)
・委員 鈴木民夫(山形大) 錦織千佳子(神戸大)
青山裕美(岡山大) 種村 篤(大阪大)
伊藤明子(新潟大) 鈴木加余子(刈谷豊田総合)
- ・アドバイザー 伊藤雅章(新潟大) 片山一朗(大阪大)



厚労科研費『松永研究班』が目指す全体システム構想



『公的認知』: 定期的に適切な監査を受け、GMP等試薬品質、情報品質等が確保され
特定の利害に関わらず、国民の為に独立した運営がなされていることの認知

私がここまで仕事を続けてこれた理由は

- 私には「人の役に立つ人でいて欲しい」と育てサポートした 母親 スミエと一緒に住んでくれたこと
- 仕事がともかくおもしろかったこと
- 職場の上司、同僚に恵まれたこと
- 夫と子供が元気で暖かくサポートしてくれたこと
- 夫の両親・兄妹がすばらしい人であったこと
- 私の姉兄がともかく私をかわいがってくれたこと

そして・・・人一倍仕事をする自分であり続けたこと・・・



言い換えると

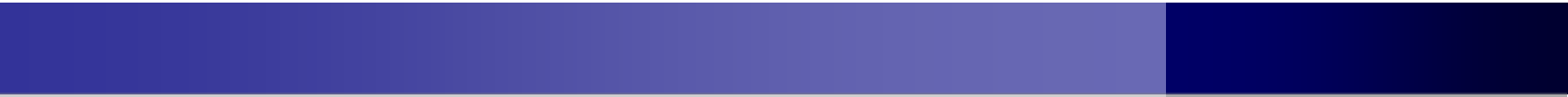
- 努力しなければ何事もスマートにできない
- 努力すれば、なんとかできる
- ・・・自分であったことが、継続する力になったのでは
まわりには、優れた頭脳の持ち主が多くいる
まわりには、遊び上手な人もいる
しかし、まわりには、からだも 心ころも 弱くなった
患者さんやご家族がいらっしゃる
- ・・・そんななかで、できるだけ自分にしかできないこと
を、自分だからできることをこつこつとやってきました



- 「自分だからできることがある」
 - 「女性だからできることがある」
 - 「いまだからできることがある」
- ・・・と自分を励まし歩いてきました。

・・・ここまできたら、しみじみいい人生と思います。





私の人生の目的は

「人を活かすこと」

Only one & No 1へ

まだまだ私の人生は続きます

